

2 文の成分(1)

2-4

4 下線部の語が修飾する文節に波線を引け。

- (1) 島国という文化風土は、なかなか外来のものを受け入れない性格をもっている。
- (2) 茅野から諏訪へ向かって歩いていくうちに、ふと、通りがかりにあった小さな家が私の心をとらえた。
- (3) 自分を堅持して、思いきり学んだり働いたり遊んだりする生き方に徹するなら、おのずから素晴らしい人生が展開する。
- (4) まるで、この句の中の「鳥」も「魚」も幻想的な絵の中の動物のようだ。
- (5) もし近代に生きる人のすべてが自由に自分自身で考えるようになれば、もはや私たちは個人主義という言葉を使う必要がなくなるでしょう。

5 下線部の修飾語のうち、働きが他と異なるものを一つ選べ。

- ア ゆらゆら揺れる吊り橋がある。
- イ なだらかな斜面が川の中にのめりこむ。
- ウ いつも故郷の秋の紅葉を懐かしむ。
- エ あの青春の日々に味わった喜びを思う。

6 下線部の語が修飾する文節に波線を引き、連用修飾語なら A、連体修飾語なら B を書きなさい。

- ア 暗く果てしなく広がる宇宙空間。 []
- イ バラのやさしい、人を明るくする色合い。 []
- ウ お湯がぐらぐらと怖いくらいに煮え立つ。 []